

意味検索可能なアート・アーカイヴを用いたレニ・リーフェンシュタール、及び同時代の表象の分析

慶応義塾大学大学院生 吉田悠樹彦

90年代後半から提起されてきた視覚文化論と呼ばれる領域では、観察者が表象を既存の人文社会科学の方法論で分析するのみならず、映像データベースの様な次世代メディア基盤上で人工知能の技術やデータサイエンスを応用した文化研究が行われている。代表的な先端的研究機関としてはZKM(ドイツ)、V2(オランダ)、Planetary Colloquium(イギリス)を上げる事が出来る。例えば、ロイ・アスコットやジョン・A・ウォーカー、サラ・チャップリンはデータベースを用いた視覚的形態とそのコンテキストによる研究を予測する。文化研究のみならず情報学、認知科学、言語学、記憶術、修辞学といった諸領域を網羅する先端領域が形成されつつある。日本でも評価が高いジョナサン・クレイリーの一連の著作、ダウア・ドラウシマ「記憶の比喻」、ビル・ヴィオラのヴィデオ・アートがその成果物である。

これまでレニ・リーフェンシュタールの映像は、その表象としての特質からナチスか非ナチスかと多くの研究者達の内的一貫性に基づく形で論議されてきた。その結果「全ショットをコンピュータに入力した定性的な分析」(瀬川祐司)が近年発表され、一方で様々な研究結果から「映像の作用を正確な分析を通じて相対化する必要性」(平井正)が指摘されてきた。本研究ではコンピュータを通じて導き出された数値を用いる事から意味の中立化、視覚化、相対化を行いリーフェンシュタールの画像に対して解釈を行った。

具体的には次世代メディア基盤としてのデータベース(清木康、金子昌史、北川高嗣、“意味の数学モデルによる画像データベース探索方式とその学習機構”電子情報通信学会論文誌, Vol. j79-D-2 No.4, pp.509-519, April. 1996.)を用いる事からドイツ表現主義、表現舞踊、ナチアート、リーフェンシュタール「民族の祭典」全ショットに対して分析を行った。本研究では意味の数学モデルをロングマン英英辞典の意味空間に適用することで、動的なコンテキストに対する意味検索を行う事が出来るデータベースを使い合計1400点の映像に対して分析を行った。

まずこのデータベースを利用し8冊の1次・2次文献、M・グリーン「真理の山」、モッセ「国民の歴史」、クラカウアー「カルガリからヒトラーへ」、ソントグ「魅惑的なファシズム」、トフラー「官能の帝国」、吉田悠樹彦「幻視と映像 -レニ・リーフェンシュタールの作品に」、リーフェ

ンシュタール「回想」、ヒトラー「我が闘争」による映像に対する意味空間とコンピュータを用いて画像から自動生成された意味空間(小谷拓矢、清木康、北川高嗣、“色彩情報による静止画像メタデータ生成方式と意味的画像検索への適用,”電子情報通信学会 第9回データ工学ワークショップ(DEWS'98)論文集, 1998)を作り出した。映像に対してリーフェンシュタール(ナチス)、リーフェンシュタール(スポーツ)、表現主義、ナチアート、ラバン・ヴィグマン、ナチスに傾向しなかった表現舞踊、ヒトラーの7つのカテゴリを作り、それぞれのカテゴリに対して1次・2次文献の該当する箇所から3つのメタデータを抽出し、図像1枚1枚と1:1の対応をつけた。自動生成に関してはカーネギーメロン大学で行われているコンテンツ・フィルタリングを参考にしながら発案し、コンピュータ(エージェント)を用いた意味の自動生成を行う事でメタデータの映像に対する自動生成を行った。図像に当てたメタデータを経験データ(ジョナサン・クレイリー)とし、表象としてのメディアデータに意味を与えそれに対する検索語の意味から派生する数値をコンテキストと考えることから分析を行った。経験データは8人の専門家の専門知識と1つのエージェントによって生成された知識である。

その結果、データベースの内部で図像がおのこの意味を持ちながらもそれぞれが自律的に存在し、各コンテキストによって意味が形づけられてくる事が解った。モッセやグリーン、クラカウアーのようにリーフェンシュタールを親ナチスと扱う作家の間の結果と、そうでない分析者、リーフェンシュタールやヒトラーのようなその時代を生きた人々の知識の間に異なった傾向を見ることが出来た。具体的には当時の身体文化や表現舞踊、表現主義のイメージに基づくコンテキストでは身体文化や表現舞踊、表現主義自体のみの数値が高くなった。その一方でナチスを指し示すコンテキストに対しては、ナチスのみならず全体的に大きく異なった値が導かれた。同時にその結果はこれまで文献で行われてきたリーフェンシュタールに対する研究や、一般的なリーフェンシュタールに対するステレオタイプの諸傾向を裏付けている。リーフェンシュタールの図像の持つ表象としての特性を考える上で、身体文化や表現舞踊、表現主義のイメージも重要であるが、ナチスドイツという要素が大きな意義を持つことがこの分析を通じて裏付けられた。

一連の作業を通じて日独現代舞踊アーカイヴを実装したい。今後の課題としては専門辞書による意味空間を用いた精度の向上、データマイニングやクラスタリングを用いた結果の分析を行いたい。